

地上40メートルの高さから放水して消火活動に取り組む大垣消防組合の隊員＝大垣市東前町、バロー大垣物流センター



## 倉庫火災を想定、訓練

大垣消防組合 地上40メートルから放水

大垣消防組合は26日、大規模倉庫火災を想定した訓練を大垣市東前町のバロー大垣物流センターで初めて行い、約50人の参加者が万

事に備えて意識を高めた。訓練ではセンター1階の倉庫東側から出火したと想定。消防隊員らは負傷者を搬送したほか、はしご車を使って地上40メートルの高さから放水して消火活動に取り組

み。2017年2月に埼玉県で発生した物流倉庫の火災などを受けて実施。同センターの従業員や国土交通省中部地方整備局、県、大垣市の担当者らが参加した。

んだ。周辺の消火栓のみでは消火が困難という想定もあったため、同局が管内で初めて排水ポンプ車を派遣し消火活動に協力した。同組合の谷泰男消防長は

「異なる機関と連携して訓練をしたことに意義がある。至らなかつた点は検証して実際の火災に対応していきたい」と話した。

(柴田洋希)